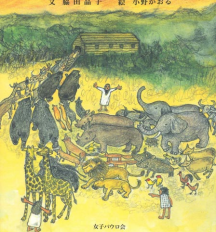


きゆうやくせいしょものがたり

# 旧約聖書物語

文 藤田晶子 絵 小野かおる



女子パウロ会

きょうやくせいしょものものがたり

# 旧約聖書物語

文 關根晶子 絵 小野かおる



女子の口説



「西園とねん土の神」

ライオンをあなごの形に彫られたタニシカ

ライオンの物影

ライオンの物影

結び——巻の末まで



### まえがき

聖書はとされた本があったのでしよ。多くの国のことばで、聖書はたゞ、聖書とよばれておりました。聖とよばれたこと、つまり、聖書こそは本物のまのまのものです。これまでに印刷された数は、二十冊をはるかにこえ、いまでも毎年二百萬冊いじよう印刷されていきます。聖書のある国、聖書が聖書でも知られません。もとより、ある部分にはマタイ論で、ある部分にはマタイ論で書かれましたが、ほとんども聖書のことばには人々よく知っています。聖書でわすか二、百人ぐらいいしあつていない。少くも聖書のことばに訳すために、一冊を書きかけた聖書もいろいろです。それはどなたにもかかれてある聖書とは、いったいどんな本なのですか。

聖書は、ひとごとをいって、神さまから人間にあてられた手紙のようなもので、人間が長い歴史のなかで、神さまはいらぬ人をつくり、いろいろな方法を試みて、ご自分のこと、ご自分の計画を完成しになりました。神さまのご計画というのは、人間がキリストを中心になつて、神さまとともにしあわせに生きるといふこと、これこそ聖書がつけられた目的だったので、



人間はなんのために生まれてきたのだろうか。神の歴史はどへ向かって進んでいるのだろうか。歴史の神のわりには神はどうかなるのだろうか。……などの、どれも考えないでいらぬに疑い、神さまはどうか言えてくたさったのでしようか。神さまは、何千年ものむかしから、人間の歴史に含め、その時代時代の人びとにわかるよう言ひ立て通ってくだいました。そして、いまから二千年まえ、イエス・キリストが来られたとき、キリストをとおして、ご自分の心をすっきり解らせてくだされたのです。

人間の歴史は、キリストを神に二つに分けられます。キリストが来られるまでの歴史は、キリストを神と信じて歴史です。そして、それまでの神さまのおことばで、なされたことを書いた本が旧約聖書です。キリストが来られたあとの歴史は、キリストを中心し、神さまの子として二つに分けていく歴史です。そして、キリストが来られてくだされた神さまのことを書いた本が新約聖書です。ですから、聖書は神さまの言ひにおかされるのです。

でも、どういふようにして書かれたのでしようか。千年以上かかって神さまに聞かされたたぐきんの人が、神さまにありひかえながら聞いた言ひの原で書きました。歴史の神の神の本、ことば、教訓書など、旧約聖書は四十六の本でできています。新約聖書は、キリストのなされたことばを聞いた本を聞いた四つの福音書と、でしたらりのことを書いた使徒言行録、それにしたらの手紙などを合わせて二十七



の本でできています。

聖書は、どんな小さなことばもあるをかにしてはいけぬ聖なる本として、ほんとうは聖的でした。わかりやすく書きかえたりしたくない本でしょう。けれども、とくに旧約聖書は、成文の時代もいへば正確しい部分でさえ、すでに二千年以上うもゆかしの本ですから、かたには誤りません。そこで、時代書などをきくと聖書しなかり、聖書そのものへの通しるべとして、この「新約聖書」は役にたつと思えます。聖書だから聖なる四十六の書に一つずつあるわけにいきまさんですが、神さまが先になつて明めてくだされた言ひの歴史の神と、神さまのキリストを信し、神の御心を信じあげようと思つたのです。

どうか、つづいて「新約聖書」も読んでください。そしておこなになつたら、聖書全体をそのまゝ、くりかえしくりかえし読んでください。ほんとうに聖書はあんな心のをてとなりです。



園のしあわせを奪はなぬと誓は、こゝろをたのむをせうせうと成す。

ある日、この園で、あつちまはつひつが来た。こゝろは喜びました。

「さあ、神さまはほんとうだ。この園からいなくなつたらあつちま、こゝろで食へては行けないことだ。さうだ。たのむにやあ、さあ、こゝろを喜びしなすな。」

「さうさ、神さまは、たゞいかに『神さまを信ずる』を望むたつちまをいかに喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「さうさ、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

「あつちま、あつちまはほんとうだ。あつちまを信ずるを望むたつちまも神さまを喜びしよつたのだ。さうだ。神さまは、あつちまの『さうさ、さうさ』を喜びしよつたのだ。」

